人々の愛情によって助けられた

荘川桜

岐阜県天然記念物

荘川まちづくり協議会

荘川桜

御母衣ダムに面した国道156号線沿いの中野展望台で湖底を見守るように、どっしりと腰を下ろしているこの二本の巨桜は、御母衣ダム建設により湖底に沈む運命にありましたが、多くの桜を愛する人たちの情熱により、世界の移植史上例のなかった老桜の移植を成功させ、毎年ふるさとを偲ぶかのように見事な花を咲かせてくれます。

所在地

高山市荘川町の国道156号線の牧戸交差点から白川方面へ5.5km北進した、中野地内の御母衣ダム湖畔の中野展望台に巨桜2本が並び立っています。

種類

2本とも「アズマヒガンザクラ」です。

樹齢

詳しい記録はありませんが、古くから桜は社寺の新築時の記念に植樹されることが多いことから、移植前の寺院のうち、飛騨地方に浄土真宗発祥の中心であった古刹「照蓮寺」の歴史を調べますと、永正元年（1504年）に中野の地の移転新築されたとの記録がありますので、現在の樹齢は500年余と推測されます。

移植の事情（御母衣ダムの建設）

昭和27年、国は終戦後の日本復興の為の水力発電を推進するため、電源開発促進法を制定し次いで電源開発株式会社を設立しました。

その最初の開発計画が、庄川最上流の御母衣発電計画でした。御母衣ダムは総貯水量3.3億m^3の東洋一のロックフィルダムで、当時の荘川村内の中野校下全域と白川村の一部に及ぶ広大なものであったため、村をはじめ地域住民は、先祖伝来の土地と住民の生活が奪われるために反対運動を始め、御母衣ダム絶対反対期成同盟死守会を結成して、純粋で熾烈な反対運動を展開した。しかし、初代電発総裁であった高碕達之助氏の誠意ある説得により合意しました。

移植前光輪寺の桜

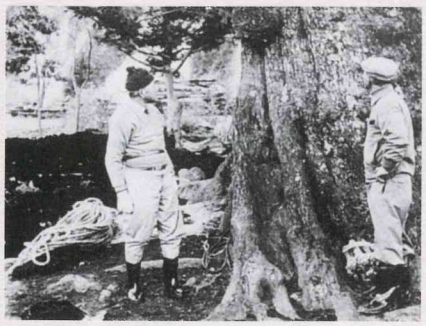
移植前照蓮寺の桜

昭和34年11月の死守会解散式に招かれた高碕氏は、自分の責任で水没する集落を散策中に光輪寺境内にある老桜を発見し、水没移住する人々の心のよりどころとして移植することを決意されて、指導者に日本一の桜博士と称されていた笹部新太郎氏に依頼しました。

笹部氏は早速現地を訪れ、近くの寺院（照蓮寺）の境内にもう1本の巨桜を発見し、万が一1本が枯れてももう1本が助かればとの想いから2本の移植を提案し2本が同時に移植され奇跡的に2本とも蘇生したのです。

移植事業

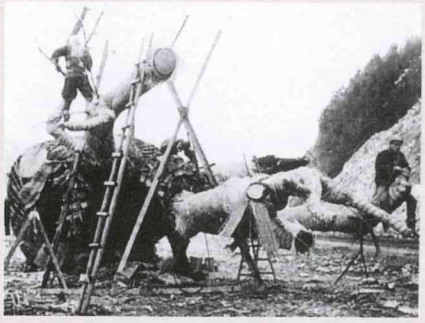
移植事業はダムえん堤が完成して湛水が始まっていた昭和35年11月15日に、電源開発株式会社が発注し、桜博士の笹部新太郎氏の指導のもと、当時、東海一の庭師と云われた豊橋市の「庭正造園」の丹羽政光氏によって事業が開始されました。



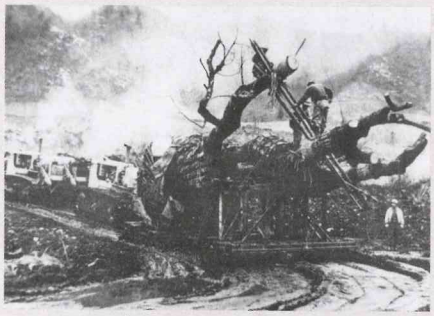
境内にそそり立つ荘川桜の前で相談する笹部氏（左）と丹羽氏（右）

桜は両樹ともに、幹周り6m、重量が40tありましたが、根や枝を切り落とし、丸坊主にされたあと、現在地までの距離1,000mの仮設された坂道を、クレーン車で吊り上げられ鉄そりに載せ、コロを使いブルドーザー2台でゆっくり引き進んだのです。　この作業には、当時としては大型の15tクレーン車2台、30tブルドーザー2台、40tブルドーザー1台が使用され、作業員はダム工事に来ていた、「間組」の職員の応援もあり、延べ1,000人に及ぶ人達によって実施されました。

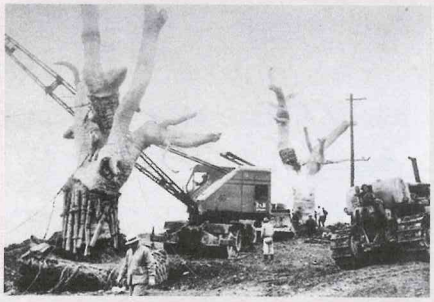
移植事業は、昭和35年12月24日に完了しました。40日間の突貫作業でした。荘川桜は、助けた人たちの愛情に応え見事に活着し、年々4月末から5月上旬に美しい花を咲かせています。



枝おろしの作業で、桜は丸裸にされていきました。100メートルほどあった根も寸断されました。



ブルトーザーで引きずられ、坂道を上ってゆく荘川桜。その無残な姿は、まるで原型をとどめていませんでした。



現在地に移植されました。

桜を助けた人たち

高碕達之助氏

笹部新太郎氏（左）・丹羽政光氏（右）

高碕 達之助（1885～1964）
大阪府高槻市出身、電源開発株式会社初代総裁、経済企画庁長官、通商産業大臣、日ソ漁業交渉日本代表を歴任、人格高潔で誠実な人。

笹部 新太郎（1887～1978）
大阪市出身東京帝国大学卒、桜の研究に一生を捧げた桜男。五千点を超える笹部コレクションは、西宮市の白鹿記念酒造博物館内に収蔵。

丹羽 政光（1908～1965）
豊橋市、庭正園主、東海一の植木職人。

移植後の動き

◎水没記念碑除幕

昭和37年6月12日移植した桜の下で開催され、高碕氏、笹部氏、丹羽氏、藤井電発総裁をはじめダム建設により故郷を去った人達500人が集い涙の式典となった。そのとき「荘川桜」と命名された。

◎岐阜県指定天然記念物指定

昭和41年12月13日指定

◎太平洋と日本海を桜で結ぶ運動が始まる

荘川桜の移植と活着に感動した国鉄バスの車掌佐藤良二氏が、名古屋から金沢まで266kmに植樹を開始する。後に映画化、テレビドラマ化される。

◎ふるさと友の会活動

昭和45年から、水没移転した家の婦人が年に一度集まり旧交をしのぶ活動が始まる。

◎二世桜の配布

荘川桜の種子から実生苗を生産し、全国の学校や公共施設に配布しており、国内外で千本以上が植樹されています。

◎桜ネイチャーラン

平成5年から、佐藤良二氏の植樹構想を基に名古屋城から金沢の兼六公園まで258kmを走破するマラソンが毎年4月に実施されています。

◎図書や映像

「桜男行状記」「桜守」映画「さくら」「プロジェクトX」テレビドラマ等多く紹介されています。

保守管理

荘川桜の保守管理は、初代総裁の意志を継ぎ電源開発株式会社が行っており、手入れは今も庭正造園に委託されています。

高碕翁のことば

「進歩の名のもとに、古き姿は次第に失われてゆく。だが、人の力で救えるものは、なんとかして残してゆきたい。古きものは古きがゆえに尊いものである」

高碕 達之助

歌 碑

すすみゆく
御代のしるしと
うもれても
荘白川の名を
とこしえに

佐々木 信綱 作
高碕 達之助 書

ふるさとは
水底となりつ
うつし来し
この老桜
咲けとこしえに

高碕 達之助 作
藤井 崇治 書

全国に数多くのダムが建設されていますが、荘川桜のように、水没移住した人々の故郷を偲ぶ心に応える生きた桜樹が残された例はありません。
高碕翁の慈悲心と植物愛からの賜物なのです。皆でこの桜を守りましょう。

お問い合せ
荘川観光協会
Tel.05769-2-2272
Fax.05769-2-3255

高山市荘川支所
Tel.05769-2-2211

http://www.shokawa.net/